



一般社団法人
日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

I. 代表理事挨拶



一般社団法人
日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

Ⅱ．議事進行の紹介



一般社団法人
日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

Ⅲ. 2025年度 新会員校の紹介

資料1



一般社団法人 日本看護系大学協議会
2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

2025年度 新会員校の紹介

No.	大学名	備考	区分	代表者＝社員（敬称略）
1	下関市立大学看護学部看護学科	学部設置	公立	中嶋 恵美子（なかしま えみこ）
2	植草学園大学看護学部看護学科	学部設置	私立	中村 伸枝（なかむら のぶえ）
3	別府大学看護学部看護学科	学部設置	私立	村中 陽子（むらなか ようこ）



一般社団法人
日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

IV. 2025年度 役員体制報告

資料2



一般社団法人 日本看護系大学協議会
2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

2025年度 役員体制報告

氏名	所属機関	分掌
■代表理事		
堀内 成子	聖路加国際大学看護学部看護学科	
■副代表理事		
麻原 きよみ	大分県立看護科学大学看護学部看護学科	高等教育行政対策委員会（常設）
■常任理事		
鎌倉 やよい	日本看護系大学協議会	JANPU-NP資格認定委員会（臨時）
■理事		
宮本 千津子	東京医療保健大学千葉看護学部看護学科	総務担当
吉沢 豊子	関西国際大学保健医療学部看護学科	財務担当、看護学教育質向上委員会（常設）
田高 悦子（新）	北海道大学大学院保健科学研究院創成看護学分野	看護学教育質向上委員会（常設）
湯浅 美千代	順天堂大学医療看護学部看護学科	高度実践看護師教育課程認定委員会（常設）
田中 京子（新）	大阪公立大学看護学部看護学科	広報・出版委員会（常設）
福井 小紀子	東京科学大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻	国際交流推進委員会（常設）
鈴木 久美	大阪医科薬科大学看護学部看護学科	データベース委員会（常設）
守田 美奈子	日本赤十字看護大学看護学部看護学科	災害支援対策委員会（常設）
萱間 真美	国立看護大学校看護学部看護学科	APNグランドデザイン委員会（臨時）
荒木田 美香子	川崎市立看護大学看護学部看護学科	健康危機管理教材作成・運用検討委員会（臨時）
荒木 暁子	東邦大学看護学部看護学科	看護実践能力評価基準検討委員会（臨時）
■監事		
川口 孝泰	医療創生大学国際看護学部看護学科	
安酸 史子	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科	



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

1. 2024年度重点事業と活動報告

- 1) 理事会及び総務会報告 (P15~)
- 2) 重点事業計画と事業報告 (P31~)
- 3) 理事の对外活動報告 (P33~)
- 4) 要望書の提出 (P37~)

2024年度事業活動報告書 P.15~44



一般社団法人 日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

理事会及び総務会報告

理事会および総務会		開催日	
理事会	定例理事会	第1回：5月31日（金） 第3回：9月20日（金） 第5回：2025年1月31日（金）	第2回：7月12日（金） 第4回：11月8日（金） 第6回：2025年3月14日（金）
	書面理事会	第1回：4月8日（月）～4月9日（火）正午まで 第2回：8月5日（月）～8月7日（水）まで	
	臨時理事会	第1回：5月7日（火） 第3回：7月5日（金）	第2回：7月5日（金） 第4回：11月25日（月）
定例総務会		第1回：4月26日（金） 第3回：6月14日（金） 第5回：8月6日（火） 第7回：10月15日（火） 第9回：12月9日（月） 第11回：2025年2月17日（月）	第2回：5月31日（金） 第4回：7月9日（火） 第6回：9月18日（水） 第8回：11月5日（火） 第10回：2025年1月14日（火） 第12回：2025年3月11日（火）



重点事業 1. 今後の看護学教育のありかたを構想し、具体的な発展の道筋を構築する

2024年度のとりくみ

- 1) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の調査研究を継続する
- 2) 看護実践能力評価基準の確定およびCBT問題作成システムの開発を進める
- 3) 実習前CBT/OSCEシステムの日本看護系大学協議会版（仮称）の開発を進める
- 4) 感染症に強い看護人材育成にむけた看護学教育プログラムの開発を進める
- 5) 会員校における教育のDX化の促進に資する情報を提供する
- 6) 保健師助産師看護師国家試験のICT化にむけて情報収集する

＜事業報告＞

- 1) 文部科学省の令和5・6年度先導的大学改革推進委託事業「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」を実施し、成果報告書および成果物として看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂（案）を文部科学省に提出した。
- 2) AIを利用した問題作成システムを開発した。試行的に作成した臨床判断に関する問題を搭載し、2・3月のJANPU-CBT実証事業を行った。
- 3) 文部科学省MEXCBTシステムを利用してJANPU-CBT実証事業を実施し、参加校は18校（902名）であった。
- 4) 感染症に強い看護人材育成にむけた看護学教育プログラムを開発し、JV-Campusにて教材（感染症5単元、災害4単元）を公開した。
- 5) 看護学教育DX caféをJANPUホームページに開設し、情報提供を開始した。
- 6) 保健師助産師看護師国家試験のICT化について、厚生労働省および自民党看護問題小委員会に対して要望書を提出した。

重点事業2. 高度実践看護のありかたを構想し、具体的な発展の道筋を構築する

2024年度のとりのくみ

- 1) 他機関と協働して方針案に基づき、APNグランドデザインを策定し、APN教育制度改革を進める
- 2) 他機関との協働のもとでナース・プラクティショナー（仮称）の資格制度化が実現するよう積極的に活動する

<事業報告>

- 1) JANPUのAPNグランドデザイン委員会に、CNSチームとNPチームをおき、APNグランドデザイン方針に基づき、活動した。
CNSチームは、CNSの定義、共通のコンピテンシー、行動目標を決定し、教育課程認定の審査基準の確認と共通科目A・Bの標準シラバスの作成を進めてきた。また、共通科目に関するe-learningの活用等を検討した。
NPチームは、ナース・プラクティショナー（仮称）の国家資格化に向けて、日本NP教育大学院協議会とカリキュラム等の一本化に向けて、合意したコンピテンシーの下位項目について検討を進めた。
- 2) 日本看護協会および日本NP教育大学院協議会とともに、ナース・プラクティショナー（仮称）の国家資格化に向けて、看護師に求められるが現行法規では対応できない医行為について検討を重ね、ナース・プラクティショナー（仮称）の必要性について国民に向けての広報等、会議を行った。

重点事業3. 効果的な協議会活動を実現する組織運営および関連団体との協働を行う

2024年度のとりくみ

- 1) 日本看護協会、日本私立看護系大学協会と協働するとともに、文部科学省や厚生労働省等に要望書を提出する
- 2) 定款・規程等を確認し、より効率的・効果的で公平性・透明性の高い組織運営に資するよう適宜改訂する
- 3) 災害時のJANPUネットワークの体制と機能を発展させる

<事業報告>

1) 以下の要望書を提出した。

- ①文部科学大臣に、「看護学生の参加型臨地実習を可能にするため、看護実践能力評価基準に基づく評価方法の検討、AIを用いた持続可能な試験問題作成・評価システムの構築への支援」の予算措置を要望した。
- ②厚生労働省医政局長と自民党看護問題小委員会には、上記①の内容に加えて「保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用に向けた法改正等の整備」と「ナース・プラクティショナー制度の実現に向けた支援」の3つについて要望した。

2) 以下の規程等を改正した。

就業規則第22条積立特別有給休暇について、取得できる場合を各号に明記し、修正した。

また、その変更に伴い関連する内部規程の条項番号の修正や改正に関する条文の追加を行った。

- 3) 災害時のJANPUネットワークの体制について、JANPUホームページに「JANPU大学間連携ネットワーク体制」として整備した。さらに、災害に対する取り組み等、情報提供と情報収集を行った。

1) 会議・外部組織委員会

主催組織	活動内容		JANPU担当	会議日
文部科学省	意見交換・協議	・新理事会体制と2024年度重点事業計画の説明 ・要望書の概要説明	堀内代表理事、 麻原理事、鎌倉理事、 宮本理事	7月26日
		・看護教育専門官/ 技術参与の採用	堀内代表理事	9月2日、12月3日
		・2026年度概算要求に向けた要望書の概要説明 ・新たな認証評価制度	堀内代表理事、 鎌倉理事、吉沢理事	2月26日
		・2月26日打ち合わせの補足と更新	堀内代表理事	3月5日
	あべ俊子副大臣 (当時)との面談	・看護学教育モデル・コア・カリキュラムに関する説明	麻原理事、鎌倉理事、 荒木理事	9月17日

1) 会議・外部組織委員会

主催組織	活動内容		JANPU担当	会議日
文部科学省	看護学教育モデル・コア・カリキュラム連絡調整委員会		鎌倉前代表理事	6月20日
			鎌倉理事、荒木理事	8月6日、12月25日 1月29日
厚生労働省	意見交換・協議	・新理事会体制と2024年度重点事業計画の説明	堀内代表理事、 麻原理事、鎌倉理事	7月25日
		・要望書の概要説明	堀内代表理事、 麻原理事、鎌倉理事、 宮本理事	3月6日
こども家庭庁	意見交換・協議	・支援局虐待防止対策課の事業や取組み状況に関する説明	堀内代表理事	11月15日



一般社団法人 日本看護系大学協議会
2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

理事の対外活動報告

1) 会議・外部組織委員会

主催組織	活動内容		JANPU担当	会議日
日本看護協会	意見交換・協議	・新理事会体制と2024年度重点事業計画の説明	堀内代表理事、 麻原理事、宮本理事	8月5日
	専門看護師制度委員会（委員として参加）		湯浅理事	4月30日、9月13日
	ナース・プラクティショナー（仮称）制度検討委員会（委員として参加）		川本前理事	4月23日
			鎌倉理事	11月18日、2月7日
	専門看護師制度推進のための合同会議		鎌倉前代表理事、 石垣前理事、湯浅理事、 藤田前理事	4月19日
			麻原理事、鎌倉理事、 湯浅理事、萱間理事	8月8日、12月16日 2月27日
	2025年新年賀詞交歓会		鎌倉理事	1月17日

2) 取材・執筆・講演等

依頼機関	取材/執筆/講演内容	開催/配信等	JANPU担当
日本NP学会	第10回日本NP学会学術集会「三団体による学会共同企画」	11月23日	鎌倉理事
川崎市立看護大学大学院 開学記念シンポジウム	特別講演 「看護における臨床・教育・研究の統合」	11月24日	鎌倉理事
東京医療保健大学大学院 看護学研究科高度実践看護コース	THCU NPフォーラム2024「JANPU-NPと日本版NPの動向と今後の在り方を考える」	11月30日	鎌倉理事
医学書院	医学界新聞「新春随想」原稿	「医学界新聞」 2025年1月14日 発行号	堀内代表理事
日本看護協会出版会	看護管理学習テキスト 第3版 第1巻 「ヘルスケアシステム論」原稿	「看護管理学習 テキスト」 2025年版	鎌倉理事

日付	提出先	要望事項
4月5日	文部科学大臣	看護学生の参加型臨地実習を可能にするため、看護実践能力評価基準に基づく評価方法の検討、AIを用いた持続可能な試験問題作成・評価システムの構築への支援
4月5日	厚生労働省医政局 医政局長	1. 保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用に向けた法改正等の整備 2. ナース・プラクティショナー制度の実現に向けた支援 3. 看護学生の参加型臨地実習を可能にするため、看護実践能力評価基準に基づく評価方法の検討、AIを用いた持続可能な試験問題作成・評価システムの構築への支援
9月10日	自民党看護問題小委員会	1. 看護学生の参加型臨地実習を可能にするため、AIを用いた看護実践能力評価基準に基づく試験問題作成・評価システムの構築への支援 2. 保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用に向けた法改正等の整備 3. ナース・プラクティショナー制度の創設に関する検討の開始



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

2. 2025年度重点事業計画

資料3-1,3-2

重点事業1. 今後の看護学教育のありかたを構想し、具体的な発展の道筋を構築する**2025年度のとりくみ**

- 1) 新たな認証評価制度について情報収集を行い会員校への情報提供と共有を行う
- 2) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂（コンピテンシー基盤型教育）の普及・啓発活動
- 3) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を反映した実習ガイドラインを作成する
- 4) 実習前CBTシステムの日本看護系大学協議会版（仮称）開発をめざし、看護実践能力評価基準の確定およびCBT問題作成システム開発と実用化を進める
- 5) 「感染症等に強い人材育成」に向けたe-learning教育プログラム（学士課程・大学院/リカレント教育）の開発および実用の促進

重点事業2. 高度実践看護のありかたを構想し、具体的な発展の道筋を構築する**2025年度のとりくみ**

- 1) 他機関と協働して方針案に基づき、APNグランドデザインを策定し、APN教育制度改革を進める
- 2) 他機関との協働のもとでナース・プラクティショナー（仮称）の資格制度化が実現するよう積極的に活動する
- 3) 高度実践看護師教育課程（CNS/NP）共通科目e-learning教材制作の検討を開始する

重点事業3．効果的な協議会活動を実現する組織運営および関連団体との協働を行う

2025年度のとりくみ

- 1) 日本看護協会、日本私立看護系大学協会と協働するとともに、文部科学省や厚生労働省等に要望書を提出する
- 2) 定款・規程等を確認し、より効率的・効果的で公平性・透明性の高い組織運営に資するよう適宜改訂する
- 3) 災害時のJANPUネットワークの体制と機能を発展させる



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

3. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版) および概要、Appendixについて

2024年度事業活動報告書 P.49～50

V. 議事説明【報告事項】

3.看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)および概要、Appendixについて

- 令和6年度「先導的大学改革推進委託事業(看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究)」業務完了報告書提出(2025年3月21日)
 - 事業1「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案」の作成
 - 事業2 パブリックコメント等を踏まえた「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂修正案」の作成
 - 事業3 事業2の成果物に関する構成概念妥当性等の検証と学習方略の追記による「看護学教育モデル・コア・カリキュラム最終案」の作成
- 文部科学省が設置した「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」において、提出した「改訂案」に関する計6回の審議が実施され、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)」として、2025年3月17日に発出された。

3.看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)および概要、Appendixについて

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版):文部科学省看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会(2025年3月17日)
 - ・看護学教育モデル・コア・カリキュラム【本文】
 - ・看護学教育モデル・コア・カリキュラム【資質・能力】
 - ・看護学教育モデル・コア・カリキュラム【教育内容】
- 令和6年度先導的大学改革推進委託事業「看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた調査研究」成果報告書:日本看護系大学協議会(2025年3月31日)
 - ・看護学教育モデル・コア・カリキュラム概要
 - ・看護学教育モデル・コア・カリキュラム【Appendix】

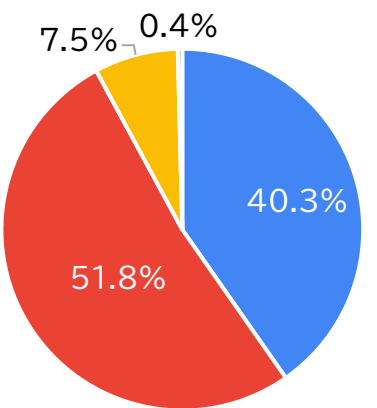
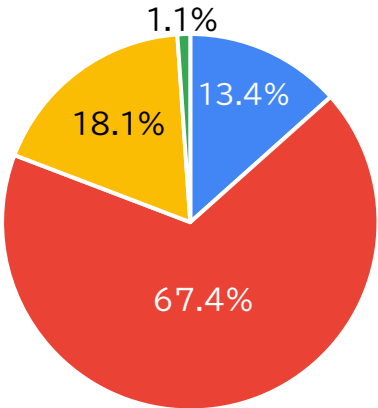
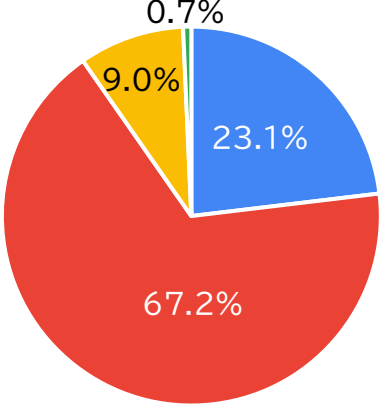
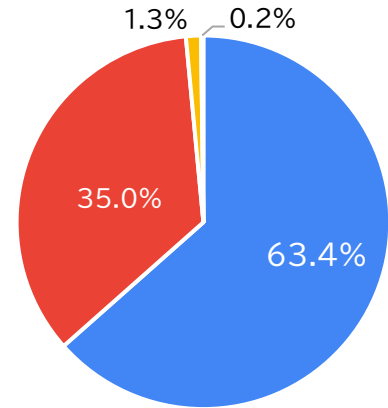
3.看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)の周知活動について:会員校

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度改訂版 Appendixの理解と活用
(4月28日、Zoomウェビナーによるオンライン開催、当日の参加:510回線)

アンケート結果 (回答数:454)

■ おおいにそう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

1) 本日のテーマに沿った内容であったか 2) 看護学教育モデル・コア・カリキュラムの必要性と概要は理解できたか 3) カリキュラム編成について、その概要が理解できたか 4) 本日のセミナーの方法は適切であったか



今後開催を希望するセミナー [複数回答可]		件数
卒業時到達を目指した各段階におけるコンピテンシー獲得の評価方法(基準・項目・到達度・達成水準)		353
ディプロマ・ポリシー(DP)とモデル・コアを活用した科目シラバスの作成について		284
ディプロマ・ポリシー(DP)とモデル・コアを活用したカリキュラムマップ・ツリーの作成状況について		247
コンピテンシーとアセスメントプラン(・テスト)との連携の方法		232
ディプロマ・ポリシー(DP)とモデル・コア・カリキュラムの対比連携について		210

- 看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーの評価方法
(7月14日16時30分～18時 開催予定)

3.看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)の周知活動について：学会

- 第29回日本看護管理学会学術集会(2025.8.22-23)

- ・インフォメーション・エクスチェンジ(座長・演者:JANPU看護実践能力評価基準検討委員会)

テーマ:シームレスな継続教育と基礎教育を目指す！

—看護学教育モデル・コア・カリキュラムの資質・能力が示す看護実践能力の活用—

- 日本看護学教育学会第35回学術集会(2025.8.29-30)

交流集会(座長・演者:JANPU看護実践能力評価基準検討委員会)

- ・テーマ:コンピテンシー基盤型カリキュラムへのパラダイムシフト

—看護学教育モデル・コア・カリキュラムの到達度の活用—

- 第45回日本看護科学学会学術集会(2025.12.6-7)

- ・パネルディスカッション(日本看護系大学協議会理事会企画)

テーマ:看護学教育モデル・コア・カリキュラムが導く看護学教育の質保証

- ・交流集会(座長・演者:JANPU看護実践能力評価基準検討委員会)

テーマ:看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく到達度と評価の考え方



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

**4.大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業
(学士課程における看護学教育の質保証に関する調査研究委託
事業-保健師の質向上のための調査研究-)**

最終次活動報告

2024年度事業活動報告書 P.51～56

V. 議事説明【報告事項】

4. 文部科学省委託事業最終年次活動報告

2022年度

現場（保健所・保健センター、病院、訪問看護ステーション、大学等）における健康危機対応のニーズと課題を調査する

ヒアリング
デルファイ調査

感染症対応を含む健康危機管理に必要なコンピテンシーならびに人材像を明確化する

2023年度

感染症等の健康危機管理に強い保健人材育成に必要なモデル教育プログラムの考案、コア科目に関するe-learning教材の開発

ワークショップの開催
・コンピテンシー
・インストラクショナルデザイン

教材プラットフォームの決定
E-learning教材開発

2024年度

E-learning教材開発と公開

モデル施行
大学への説明会
→モデル事業
→学生と教員へのヒアリング

現場での視聴
→ヒアリング

マニュアル作成

4.文部科学省委託事業最終年次活動報告

学部生用教材

災害看護 4単元
(16項目)

感染看護 5単元
(22項目)

大学院生/リカレント用教材

2025年度に完成予定

※2025年度より、臨時委員会として「健康危機管理教材作成・運用検討委員会」を立ち上げ、教材作成を引き続き行う



山中保健所
保健師

弘子さん

佐藤時枝さん 78歳（無職）

- 11月8日に発症（入院中）
- 症状が出る5～7日前に特別養護老人ホームやまなかのデイサービスを利用

時枝さんの夫

佐藤博さん 80歳（無職）

- 肺炎腫で在宅酸素療法中
- 訪問看護を利用1回/週

時枝さんの長男

佐藤明さん 50歳（会社員）

- 1か月間、出張中

長男の妻

佐藤弘子さん 45歳（飲食店勤務）

時枝さんの孫

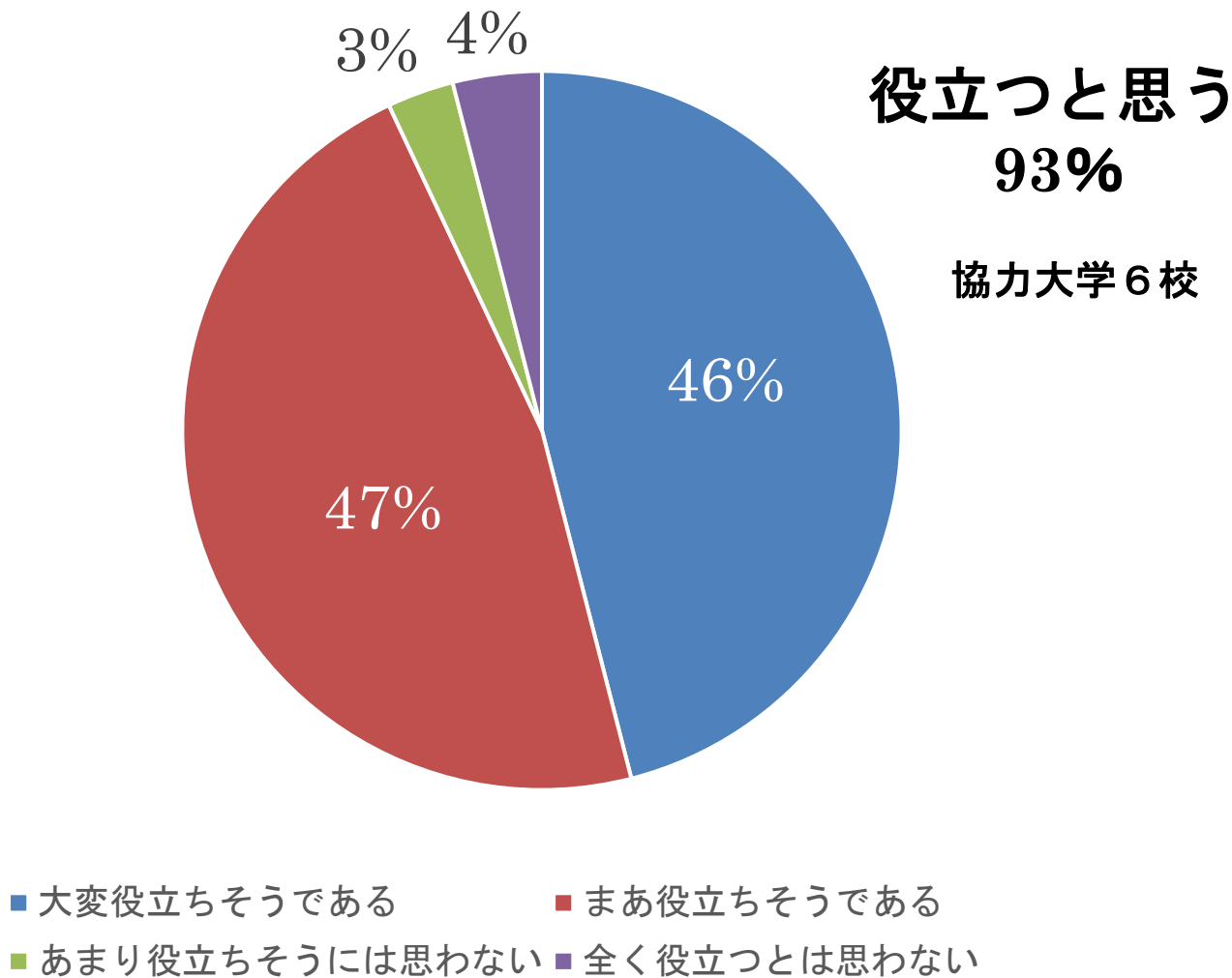
佐藤次郎さん 5歳（保育園児）

佐藤かおりさん 11歳（小学生）

佐藤一郎さん 15歳（中学生）

4.文部科学省委託事業最終年次活動報告

この教材はあなたの学習に役立つと思いますか



学生の意見（自由記載）

- ・ **問題**だけでなくしっかりと**解説**もある為とても勉強しやすいと感じたかなり**具体的な内容**であったため、実際に臨床に出る前や勉強を極めるために見ればかなりいいのかなと感じた。
- ・ 事前学習が選択問題だけではなかったのが難しかったですが、**臨床をイメージしながら解くことができて勉強になった。**
- ・ **スライドごとに学者内容**が分かれていてよい。
- ・ **倍速できたり、止めたり、前の問題に戻ることができたり**することはいいと思った。
- ・ 事例があり、ただ知識を並べるのではなく**事例に基づきながら学習**することでわかりやすいと学んだ。

4.文部科学省委託事業最終年次活動報告



- ・JV-CampusにJANPUのトップページからアクセスできます。

- ・無料で、自由に活用できます。部分活用可能

- ・説明会を開催します
6/26 19:00～
6/30 13:00～

4.文部科学省委託事業最終年次活動報告

委員会メンバー（2024年度終了時点）

A.コンピテンシー・ニーズ調査チーム ○ <u>春山早苗</u> （自治医科大学）			
牛尾裕子（山口大学大学院）	有本梓（横浜市立大学）	大塚敏子（元椚山女学園大学）	江角伸吾（宮城大学）
中谷淳子（産業医科大学）	鈴木美和（三育学院大学）	島田裕子（自治医科大学）	小寺さやか（神戸大学大学院）
斎藤照代（国際医療福祉大学）	瀬瀬朋弥（岐阜大学）	木全真理（川崎市立看護大学）	湯本晶代（千葉大学）
青木恵美子（川崎市立看護大学）			
B.感染管理専門チーム ○渡部節子（湘南医療大学） ○川上和美（順天堂大学）			
平尾百合子（山梨県立大学）	佐藤淑子（大阪公立大学）	佐藤ゆか（元愛知医科大学）	三橋睦子（国際医療福祉大学）
岡田忍（川崎市立看護大学）	脇坂浩（浜松医科大学）	福井幸子（青森県立保健大学）	
遠藤英子（国際医療福祉大学大学院）	村上弘之（足利大学）	塚本容子（北海道医療大学）	
小松浩子（近畿大学医学部・病院運営本部）			
C.教材開発チーム ◎荒木田美香子			
石丸美奈（千葉大学大学院）	真嶋由貴恵（大阪公立大学大学院）	原田若奈（川崎市立看護大学）	高谷知史（大手前大学）
山田小織（佐賀大学）	春日広美（千葉県立保健医療大学）		
協力者：川越明日香（熊本大学 大学教育統括管理運営機構）		高橋時市郎（東京電機大学）	
杉田純一（東京医療保健大学医療保健学部医療情報学科）		内藤知佐子（愛媛大学医学部附属病院）	



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告 および2025年度の事業活動計画 【常設委員会】

2024年度事業活動報告書 P.57～108

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ①高等教育行政対策委員会

1) 関係省庁、諸団体との連携と政策的な働きかけ

- ・ 下記の内容についての要望書を作成した。
 - ①看護学生の参加型臨地実習を可能にするため、AIを用いた看護実践能力評価基準に基づく試験問題作成・評価システムの構築への支援
 - ②保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用に向けた法改正等の整備
 - ③ナース・プラクティショナー制度の創設に関する検討の開始
- ・ 2024年4月5日文部科学大臣、厚生労働省、9月10日に自民党看護問題小委員会に要望書を提出した。※文部科学大臣には①、厚生労働省および自民党看護問題小委員会には①～③を提出した。

2) Academic Administrationの能力向上への取り組み

(1) 基幹教員に関する研修会の開催

- ・ 2024年10月11日に文部科学省担当者からの制度説明と会員校からの質問への回答および意見交換を行った。

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ①高等教育行政対策委員会

(2) 教学マネジメントに関する研修会の開催

- ・ 2025年3月29日の報告会で、教学マネジメントの定義と経緯、指針の意図・対象と概要、三つの方針と目標、教育課程の編成、学修成果の可視化等について報告し、意見交換を行った。

(3) JANPU FDミニマムシリーズの更新の検討

(4) 看護学教育の質向上および課題抽出のための調査の検討

<今後の課題>

- ・ 関係各省等への要望書提出を継続し、関係機関とさらなる連携を図る。
- ・ 令和7（2025）年2月21日の中央教育審議会の答申「我が国の『知の総和』向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～」(中教審第255号)では、大学の全体の規模の適正化の推進、新たな評価制度が示された。速やかな情報収集と会員校への周知を行う。
- ・ その他、会員校の関心を把握し行政対策に関する情報提供を行う。

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ②看護学教育質向上委員会

1. 会員校における教育DX化の促進に資するよう、会員校の情報共有と協働の方法の検討

JANPU看護学教育DX caféの公開：<https://www.janpu.or.jp/dx/>



- ・ DX教材開発やDXを活用した看護学教育の実践に関する情報、会員校の教員ニーズに合った教育DXのヒントが得られ、交流の場となるプラットフォームになった
- ・ 2025年3月18日 “看護学教育DX化で学習効果・効率をUPする JANPU DX Café” オープンイベントをウェビナーで開催

2. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に基づく看護実践能力評価方法としてのOSCEの検討

- ・ 看護実践能力評価基準検討委員会と本委員会OSCE班との合同会議にて、CBTで評価する範囲とOSCEで評価する範囲について整理の実施
- ・ 看護学教育モデル・コア・カリキュラムのうち「CS：患者ケアのための臨床スキルのうちの12項目（基本的看護技術、日常生活行動を支援する技術）」の妥当性について検討をすることになった

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ②看護学教育質向上委員会

3. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム（改訂）に基づく看護学実習ガイドラインの見直し
3回の実習班会議を開催し、2020年のガイドラインの下に改訂版の骨子（案）を作成した。

I. 看護学実習ガイドライン改訂版の趣旨

1) 看護学実習ガイドライン改訂版の位置づけ

（1）臨地実習で身に着ける学生の資質・能力

（2）参加型臨地実習

（3）各領域別実習前の到達度と領域別実習後の到達度の設定

2) 看護学実習の目的

3) 大学・実習施設・学生の役割

II. 大学と実習施設との連携・協働体制の構築

1) 大学と実習施設との組織的体制作り

2) 指導の体制作り

3) 看護学実習における倫理及び安全管理に関する調整

III. 看護学実習前の調整

IV. ケアへの参画における指導方法

1) 参加型実習を行うために

V. 評価方法

4. 今後の課題と活動計画

- ・ 看護教育DX caféのウェブサイトの更新および会員校の情報交換の促進
- ・ 臨地実習前の看護実践能力評価方法としてのOSCEの項目の策定および、評価基準の作成
- ・ 看護学実習ガイドラインの改訂

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ③高度実践看護師教育課程認定委員会

1) 高度実践看護師教育課程の審査および認定の実施

- ・ CNS新規申請：6大学1共通科目、6専攻教育課程
- ・ CNS更新審査：16大学12共通科目、31専攻教育課程
- ・ CNS科目内容変更申請：5大学3共通科目、4専攻教育課程 の認定

2) 高度実践看護師教育課程認定に関する申請希望大学への情報発信および相談業務の実施

- ・ 申請方法に関する説明動画をオンデマンド配信
- ・ 5月30日（木）Zoomで事務担当者に向けた説明会を開催
- ・ 2025年3月29日（土）Zoomでの全体説明、分野別の相談会、個別の相談受付

3) 2025年度版審査要項の作成

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ③高度実践看護師教育課程認定委員会

4) 高度実践看護師教育課程への入学生募集状況調査

5) 委員会効率化に向けた検討

6) 他委員会や日本看護協会との連携・協働

- ・ APNグランドデザイン委員会からの報告に対する意見収集
- ・ 日本看護協会との意見交換・情報共有を推進

7) 感染症モデル教育プログラムの教材作成

- ・ 感染看護専門分科会委員によるeラーニング教材作成（文部科学省委託事業3年計画の3年目）

8) 次年度への課題

- ・ 高度実践看護師教育課程の認定を推進し、高度実践看護師の増加と質向上に寄与する活動を実施する。理事会や他の委員会、ならびに資格認定を行う日本看護協会との連携・協働を推進する。APNグランドデザイン委員会が提示した課題や方針にそった対応を検討する。

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】

④広報・出版委員会

1. 趣旨

看護に関する情報を会員校ならびに社会、特に高校生、保護者、高校の進路指導教員に向けて広報することで、看護系大学の志願者増加と看護学教育の発展を支える。

2. 活動内容

1) ホームページ、SNSの経過や今後に向けての検討

- ・各会員校のホームページにJANPUビジュアルバナーおよびテキストバナーを設置できるように、バナーデザインを作成し、13大学のホームページで設置されている。
- ・WEB メディア“看護roo!”と協働で、専門看護師へ取材し、特集「専門看護師をめざす」にて公開中。
- ・APNを目指す高校生や看護職にとって魅力的かつアクセスしやすいホームページへの改善策を検討する。
- ・看護系大学の志願者を対象に看護系大学の教員を紹介すること、また教員同士の相互交流の活性化を目的として全会員校に「今月の注目！看護系大学の教員」執筆者の推薦を依頼。

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ④広報・出版委員会

- ・看護系大学を目指す高校生等にとっても魅力的なJANPUのホームページとなるよう、学生から企画等について意見やアイデアを提示してもらえるよう3名の学生委員を委嘱し、1回2時間程度の意見聴取を3回実施。「高校生（看護系大学入学を考えている受験生）はどのような情報を必要としているか」「今時の高校生はどのようなツールを使用しているか」等のテーマで意見聴取を行った。
 - ・「メール配信・HP掲載・SNS投稿に関する条件」の再検討。
 - ・SNS（X、Facebook、JANPU Cafe）の運営、SNSに関する規約の作成。利用者数は増加傾向。
 - ・X、Facebook、JANPU Cafe、TikTokの全体について、XやFacebookのポリシーをベースにして、JANPUソーシャルメディアポリシー作成。
 - ・各会員校にオープンキャンパスページ登録を依頼。
- 2）「大学で看護を学ぼう！」リーフレット（高校生対象）について「2025年に向けた看護師増加計画」の記事から看護系大学における「コンピテンシー基盤型教育」に関する記事への変更の検討を行った。

今後の課題

高校生、保護者、高校の進路指導教員が看護系大学および看護職の魅力を理解できるホームページになるよう、企画立案について学生委員の参画を促進する。会員校のオープンキャンパスや若手教員の教育等の活動、さらに高度実践看護師の活動に関する情報の発信を活性化する。

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ⑤国際交流推進委員会

1. 主旨

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流を積極的に推進する。
- 2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) のExecutive Committee (EC) に参加し、連携を促進する。
- 3) 看護系大学における国際的な教育・研究活動を推進・支援する。

2. 活動の実際

- 1) EAFONSのECへの参加と連携促進

2025年2月13-14日にEAFONS2025（ソウル）の会期中にEC会議が開催され、Chairの池田委員と福井委員長が参加し、東アジア地域の看護系大学間協働のための活動方法や新たな国々の受け入れ等、運営課題の検討が行われた。また、博士課程の教育に関する実態調査（国際共同研究）について協議した。

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ⑤国際交流推進委員会

2. 活動の実際（つづき）

2) 2024年度JANPU国際交流推進委員会主催セミナー

- ・2025年3月8日にオンラインにて「共に考えよう、国際交流の企画から運用、そして発展」と題し、本委員の実際に直面した課題を提示後、分科会にて参加者の取り組みや課題の共有、解決策の検討を行った（参加者42名）。
- ・アンケートから、参加者の大半は役に立ったと回答され、特に、取り組みの実際や運用面での工夫等が参考となり、教員の語学力や担当者以外の教員の巻き込み方等、参加者の悩みを共有・共感できる場となった。国際交流の継続においては、大学間でのネットワークの必要性について多くの回答があった。

3. 今後の課題

今年度は、コロナ禍では行うことができなかった分科会をオンラインで開催し、参加者と直接対話する機会を設けたことで、現場の課題を抽出することができた。次年度は、抽出した課題を基に委員会主催セミナーの企画・運営を行っていく予定である。

JANPU国際交流推進委員会主催セミナー

**共に考えよう
国際交流の企画から運用、そして発展**

開催趣旨：国際交流をどのように開始し、発展させていけば良いのか、経験者の語りを基に、グループワークを行って考える参加型セミナーを開催いたします。
本セミナーから、国際交流を発展させるヒントを得ていただければ幸いです。

日時：2025年3月8日(土)13:00～15:30 参加費無料
開催方法：Zoomを用いたWEB会議システム 先着80名

司会：菅野雄介（JANPU国際交流推進委員/東京科学大学）

13:00～13:20

1. 世界における日本の看護系大学の位置づけ、本委員会の活動目標
福井小紀子（JANPU国際交流推進委員長/東京科学大学）
2. EAFONSの活動について
池田真理（JANPU国際交流推進委員・EAFONS Chair/東京大学）

第1部 13:20～13:50

1. 国際交流を進める際の学生教育・学生支援の工夫：
プログラムの組み立ての現状と困難感
森木友紀（千里金蘭大学）、長山豊（金沢医科大学）
2. 国際交流プログラムの事務的な手続き・教員側の教育に関する
悩みと工夫
古澤亜矢子（日本福祉大学）、寺本千恵（広島大学）
3. 海外大学との共同研究のはじめかた：
コラボレーション相手やテーマの設定を中心に
酒井啓子（畿央大学）、落合亮太（筑波大学）

第2部

14:00～15:00 グループワーク（ブレイクアウトルーム）
※以下の3テーマのうち1つを選んでいただき、グループ討論に参加していただきます
テーマ①：国際交流を進める際の学生教育・学生支援の工夫
テーマ②：国際交流プログラムの事務的な手続き・教員側の教育に関する悩みと工夫
テーマ③：海外大学との共同研究のはじめかた

15:00～15:25 グループワークの共有

お申込み方法
右記QRコードより2月27日(木)
までにお申込みください！



<問い合わせ先>
一般社団法人日本看護系大学協議会 事務局
E-mail: office@janpu.or.jp
TEL: 03-6206-9451

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ⑥データベース委員会

【趣旨】

JANPUの会員校における学習環境、教育内容、社会的役割などの現状を毎年数量的に把握し、社会および会員校における看護学教育のあり方の検討、教育政策、看護政策などへの提言のための基礎資料を作成し、より一層の看護学教育の質向上を目指す。

【活動の実際】

- 1) 「2023年度（2024年度実施）看護系大学に関する実態調査」の実施。
JANPUとして16回目、日本私立看護系大学協会との協働実施として7回目である。（304校中回収率96.7%）⇒2024年度事業活動報告書掲載

2024年度事業活動報告書 P.97～98

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ⑥データベース委員会

【活動の実際のつづき】

- 2) 会員校への調査依頼および質問への対応を行った。
- 3) データ分析・実態調査報告書の作成をした。

【今後の課題】

- 1) 質問項目の解釈が異なって入力されている項目が一部見られるため、項目の定義や注釈の整理を行い、正確なデータを得られるように入力マニュアルを作成する。
 - 2) 質疑応答集の項目を整理して、入力負担の軽減を図る。
- ＊ 大学ポートレート（大学改革支援・学位授与機構 大学ポートレートセンター）が提供する国内全大学のデータベース（大学基本調査の項目）にはない看護学教育独自の項目が多いため、本調査の意義は大きい。

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ⑦災害支援対策委員会

趣旨：防災及び災害支援にかかわる事業として、看護系大学の在り方や広報、防災教育等の重要事項を協議し、本事業の円滑、適正な運営を図る。

活動1：災害対応のためのJANPU災害ネットワークの運営

- 会員校に連携体制について周知するとともに、窓口担当者の交代や新規登録校等の確認を行い連携体制の整備を図った。
- 2024年度は291校の会員校が登録している。7つのブロックで1-2回/年の連携会議、ブロック内では小ブロック会議を年4-10回/年開催し情報共有を図った。各会員校の連携担当者の継続が円滑になるよう、ネットワークの目的や組織、対応課題等を明記したガイダンス資料を作成した。

活動2：災害発生時の被害状況と支援ニーズ調査

- フォーマットを用いて被害状況調査を実施した。
- ①2024年8月宮崎県で地震発生（震度6弱）：1校の被害報告
②8月台風10号：関西・近畿ブロック2校、九州・沖縄ブロック4校、中国・四国ブロック10校に被害

ブロック	登録 課程数
北海道・東北	31
関東（東京以外）	56
東京	26
中部	57
関西・近畿	57
中国・四国	30
九州・沖縄	34

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【常設委員会事業報告】 ⑦災害支援対策委員会

活動3：災害に関する情報発信のためのJANPUホームページの改修

- これまでの災害被害の調査結果やフォーラムの内容を閲覧しやすくするために、災害コンテンツの修正を行った。

活動4：災害フォーラムの企画と運営

- Zoomウェビナーを用いて「能登半島地震から学ぶ大学の防災」のテーマで、2025年2月15日(土) 13時～15時に実施。当日参加人数195名。
- ①災害支援対策委員会ブロック活動報告、②能登半島地震の被害とJANPU対応、③石川県立看護大学の対応（川島和代氏、石川県立看護大学）、④石川県への大学からの学生派遣の実際として、災害支援を通じた看護学生の成長と地域コミュニティ形成（佐藤大介氏、福井大学）、活動内容と派遣システム（小寺直美氏、四日市看護医療大学）、派遣を可能にするカウンターパート（國松秀美氏、宝塚大学）の報告を行った。アンケート結果では99.2%の方が役に立ったと回答し好評であった。

活動5：防災マニュアル指針2022の内容検討

- 防災マニュアル指針2025の改訂を目指して、2022版の内容検討を行い修正課題の検討を行った。

【2025年度の事業課題】

- ①JANPU災害大学間ネットワークの運用を円滑にするために連携担当教員にガイダンスを実施する、②大学間の連携や支援方法について検討する、③防災マニュアル指針2025の改訂、④災害フォーラムの企画・開催、⑤会員校の取り組み事例の収集



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の 事業活動報告および 2025年度の事業活動計画 【臨時委員会】

2024年度事業活動報告書 P.109～119

V. 議事説明【報告事項】

7. 2024年度各委員会の事業活動報告【臨時委員会事業報告】

看護実践能力評価基準検討委員会

2024 活動報告

2025 活動計画

- 活動① R6年度看護学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究
- 活動② CBTとOSCEと臨床問題の区別化
- 活動③ 看護実践能力評価基準に基づくAIを用いた持続可能な問題作成・
評価システム検討
- 活動④ JANPU-CBT 運営事業

看護実践能力評価基準検討委員会

活動② CBTとOSCEと臨床問題の区別化

2023 年度継続活動（看護学教育質向上委員会と合同で実施）

野島敬祐(京都橘大学)

神澤尚利(東京都立大学)

西村礼子(副委員長、東京医療保健大学医療保健学部)

看護学教育モデル・コア・カリキュラム 令和6年度改訂版

各領域実習前時点の資質・能力の測定ツールとして

- ◆ コンピュータを用いた試験(Computer-Based Testing: CBT)
- ◆ 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)

上記活用した臨床問題(評価課題と評価基準)の区別化の検討

卒業時点・各領域実習前時点・臨地実習時点の
第4階層の資質・能力に対する到達度の再検討

検討の視点と考え方

① CBTとOSCEの区別化の検討

- 原則として、CBTは第4階層資質・能力(756)に対応し、到達度「Knows How」の評価を可能とする。
- 原則として、OSCEは第4階層資質・能力(756)のうち、各領域実習前時点で、(環境による実現可能性、評価基準と評価課題の限界も踏まえて)、資質・能力の評価と保証が必要なものをpick upする。
- 看護実践能力評価基準検討委員会からの修正案を提案し、双方で検討

② 第4階層の資質・能力に対する到達度の再検討

- OSCEが実現可能となった場合、各領域実習前時点の到達度の「Shows How」の見直しが必要なものをpick upする。

① CBTとOSCEの差別化の検討

- ・原則として、CBTは第4階層資質・能力(756)に対応し、到達度「Knows How」の評価を可能とする。
- ・原則として、OSCEは第4階層資質・能力(756)のうち、各領域実習前時点で、(環境による実現可能性、評価基準と評価課題の限界も踏まえて)、資質・能力の評価と保証が必要なものをpick upする。

第4階層	資質能力	評価方法
CS-04-02-01	対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、適切な手技とタイミング（WHO 5 moments）での手指衛生・個人防護具（PPE）の着脱・破棄、スタンダードプリコーションおよび感染経路別予防策が実施できる。	OSCE
CS-04-02-02	感染予防として感染の成立、感染予防の3原則、医療関連感染、感染経路の遮断、標準予防策・感染経路別予防策、ゾーニング、感染性廃棄物、医療器材の洗浄・消毒・滅菌、無菌操作について理解し、実践できる。	OSCE
CS-04-03-01	日常生活行動に関する看護技術の目的・方法・根拠・観察・評価・医療安全の視点を理解し、対象に与える侵襲を予測・観察しながら、安全・安楽に実施できる。	OSCE
CS-04-03-02	対象の健康障害と段階、ライフサイクル、生活する場に応じた方法で、日常生活行動に関する看護技術の説明、苦痛の軽減、危険の察知と対処方法、専門職連携を行うことができる。	OSCE
CS-04-04-01	対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた方法で、活動・休息、リラクゼーション、看護調整にかかわる看護技術を適用し、身体症状に対する支援（マネジメント）と安楽を促すことができる。	OSCE
CS-04-04-02	対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた体位の現状や良肢位を分析し、ボディメカニクスやノーリフトの視点を意識した援助技術を実践できる。	OSCE
CS-04-04-03	対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた対象者の生活行動を支える歩行補助具、車椅子、義肢（義手、義足）と装具について説明、工夫、提案できる。	OSCE
CS-04-05-01	栄養療法において、対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた栄養の種類と適応、禁忌、投与経路を理解し、食事援助技術、栄養管理技術を実践できる。	OSCE
CS-04-06-01	対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた排泄援助技術・管理を実践できる。	OSCE
CS-04-07-01	対象の健康段階・ライフサイクル・生活する場に応じた清潔・衣生活・整容援助技術を実践できる。	OSCE
CS-04-08-01	対象の健康障害と段階、ライフサイクルに応じた方法で、バイタルサイン（生命徴候）を測定し、個別性に応じた正常・通常からの逸脱を説明できる。	OSCE

看護実践能力評価基準検討委員会 活動②CBTとOSCEと臨床問題の区別化【まとめ】

【2024年度の委員会の見解と限界】

- ・患者ケアのための臨床スキル:CSの第3階層の「基本的な看護技術」、「日常生活行動を支援する技術」、「日常生活行動を支援する技術(活動と休息)」、「日常生活行動を支援する技術(食べる)」、「日常生活行動を支援する技術(排尿・排便)」、「日常生活行動を支援する技術(清潔・整容)」、「生命活動を支える援助技術」ではOSCEによる評価の検討が必要であることが示唆された。
- ・一方で、その判断基準の精緻化、環境による実現可能性と評価基準・評価課題の検討が必要である。
- ・OSCEの実現が可能となると、到達度の見直しが必要な資質・能力がある可能性が示唆された。

【2025年度:看護実践能力評価基準検討委員会と看護学教育質向上委員会の継続事業案】

⇒看護実践能力評価基準検討委員会の活動

- ③ CBT問題作成支援Botの開発…すべての資質能力を測定できるか
- ④ JANPU-CBT 実証事業とともに、2025年度はCBTによる第4階層の資質・能力評価を継続検討

看護実践能力評価基準検討委員会

活動③

看護実践能力評価基準に基づくAIを用いた
持続可能な問題作成・評価システム検討
2024 年度新規活動

西垣昌和(国際医療福祉大学)

横田慎一郎(千葉大学)

西村礼子(東京医療保健大学)

評価領域による問題のタイプと作成上の課題

1型〔想起(recall)〕;主として一般問題 設問⇒想起⇒解答

1 吸気時に増強するのはどれか。2つ選べ。

☐ a

僧帽弁閉鎖不全症の収縮期雑音

☐ b

僧帽弁狭窄症の拡張期雑音

☐ c

大動脈弁狭窄症の収縮期雑音

☐ d

三尖弁閉鎖不全症の収縮期雑音

☐ e

三尖弁狭窄症の拡張期雑音

II型〔解釈(interpretation)〕主として臨床問題

設問(データ提示)⇒理解・解釈⇒病名・病態像⇒解答

2 58歳の男性。仕事中に倒れたため搬入された。以前から高血圧を指摘されていた。血圧230/120mmHg。意識障害<傾眠>があり、右片麻痺を認める。髄液は血性で、上清にキサントクロミーを認める。
最も考えられるのはどれか。

☐ a

脳出血

☐ b

脳塞栓症

☐ c

矢状静脈洞血栓症

☐ d

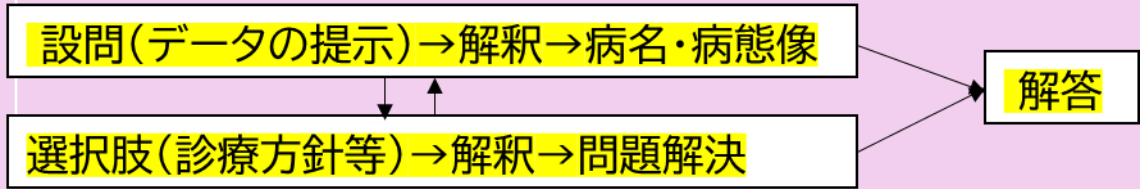
くも膜下出血

☐ e

急性硬膜下出血

III型〔問題解決(problem solving)〕

設問文の情報を解釈(1回目の思考)するのみではなく、各選択肢のもつ意味を解釈(2回目の思考)しないと解答できない問題をいう。



3 生後3週の男児。5日前から哺乳ごとに噴水状嘔吐をするため来院した。食欲は良好で、下痢はなく、排便は3日に1回である。皮膚は乾燥し、緊張度が低下している。右上腹部深部にオリブ大の弾性硬の腫瘤を触れる。血液生化学所見:Na 140mEq/l、K 3.0mEq/l、Cl 89mEq/l。動脈血ガス分析:pH 7.51。適切な輸液組成はどれか。

	Na(mEq/l)	K(mEq/l)	Cl(mEq/l)	乳酸(mEq/l)	ブドウ糖(%)
a	154	0	154	0	0
b	90	0	70	20	2.6
☒ c	50	20	70	0	3.3
d	35	20	35	20	4.3
e	0	0	0	0	5.0

生成系AI等でも作成可能だが、既存問題の改変が必要

知識を有しているだけでなく、アセスメント(解釈・分析・推論・判断)の段階を正確に評価することが必要

問題作成プロセスとAIによる支援 I, II 型問題

新規作成



自分

小児流行性疾患に関するMCQを作って



Copilot

✓ 回答を生成しています...

もちろんです！以下に小児流行性疾患に関するMCQ（多肢選択式問題）を作成しました。

小児流行性疾患に関するMCQ

問題 1

RSウイルス感染症の主な症状はどれですか？ a) 発疹

b) 鼻水・鼻づまり

c) 下痢

d) 耳の痛み

問題 2

ヒトメタニューモウイルス感染症の症状として正しいものはどれですか？ a) 皮膚の発疹

b) 咳と鼻水

c) 腹痛

d) 耳鳴り

既存問題の活用

- 1 吸気時に増強するのはどれか。2つ選べ。
- ☐ a 僧帽弁閉鎖不全症の収縮期雑音
 - ☐ b 僧帽弁狭窄症の拡張期雑音
 - ☐ c 大動脈弁狭窄症の収縮期雑音
 - ☐ d 三尖弁閉鎖不全症の収縮期雑音
 - ☐ e 三尖弁狭窄症の拡張期雑音

既存問題を一部改変



問題案にメタ情報を付与

- ①資質・能力
- ②教育内容
- ③各期・ライフステージ・対象のニーズ
- ④誤答



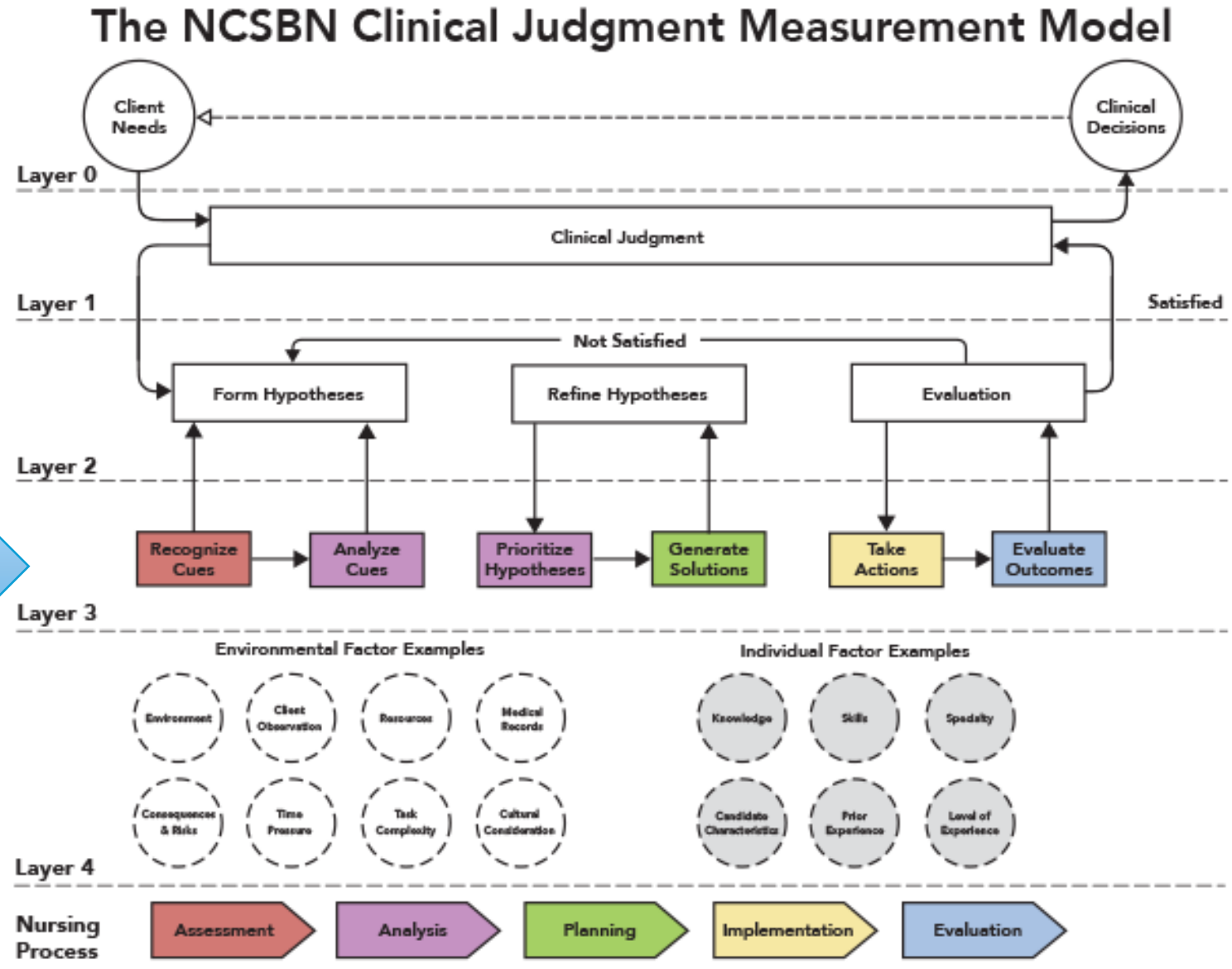
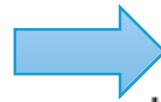
問題
プール

看護実践能力の評価

プロセスとしての臨床判断の評価
→単一の行動評価ではなく、プロセス評価が必要

「NCJMMのレイヤー3層の6つの認知プロセス」に基づいた問題作成

1. Recognize Cues
2. Analyze Cues
3. Prioritize Hypotheses
4. Generate Solutions
5. Take Actions
6. Evaluate Outcomes



レイヤー3の6の技術を問う次世代型NCLEX事例問題NGN Case study

看護師は17歳男性、左胸部にけがをした患者を受け持っている

【病歴と身体所見】

先週、バッティングケースで機械的に投球された野球ボールに打たれ、左肋骨を負傷したとのことである。かなりの打撲傷を負い、軽い頭痛を感じている。また、左肩に断続的な痛みがあるという。息切れは否定していますが、深呼吸をすると左下胸に違和感があります。腹部の膨満感を訴え、時々吐き気を催す。過去の病歴は特記すべきものはない。手術歴としては、昨年、左肩の腱板断裂を内視鏡で整復した。この怪我以来、野球の練習に参加できるほど体調が良くなっていない。

①【選択肢クリックExtended Multiple Choice】下記のアセスメント結果ですぐに対応すべきものはどれか。すべて選べ

☐湿性咳嗽 ☐血圧90/50 RR24 ☐間欠的左肩痛み ☐心電図：洞調律 ☐呼吸音：左肺減弱 ☐体温36.6℃ SpO₂96%(RA)
☐Hgb9g/dl HCT27% WBC19.0×10⁹/L ☐腹部触診圧痛。打診・濁音

②患者がリスク状態となる潜在的な問題はどれか？すべて選べ

☐脳卒中 ☐血胸 ☐腸穿孔 ☐脾臓裂傷 ☐肺塞栓 ☐腹部大動脈瘤

③【穴埋め問題：プルダウンメニュー】看護師は患者のケア計画を始めようとしてる。リストにある選択肢を選らび、文章を完成させなさい 看護師は、最初に患者の_____に対処し、次の患者の_____に対処すべきである

④【マトリックス】脾臓裂傷と左側血胸と診断されたばかりの患者の治療計画について、看護師が医師と話をしている。

各オーダーについて、その可能性のあるオーダーが患者にとって予測されるものか、禁忌とされるものかをクリックで指定します。
想定されるオーダー

☐心電図：予測可能・禁忌 ☐輸液：予測可能・禁忌 ☐腹部超音波検査：予測可能・禁忌 ☐手術の準備：予測可能・禁忌 ☐血清の種類と検査：予測可能・禁忌 ☐胸部打診療法：予測可能・禁忌 ☐経鼻胃管挿入：予測可能・禁忌 ☐処方された鎮痛剤の投与

⑤【拡張型多肢選択問題】看護師はこれから手術のある患者の準備を頼まれた。看護師がすべき行動は？適応するすべての選択肢を選べ。

☐手術マーキングを行う ☐患者に氷を提供する ☐患者から手術の同意を得る ☐持参薬や処方薬の確認を行う
☐末梢静脈血管アクセスを開始する ☐患者に手術のリスクとメリットを知らせる ☐患者のこれまでの手術や麻酔の経験を情報収集する ☐患者とケア計画を話し合う間、患者の両親に待合室で待つように伝える

⑥【強調表示問題(ハイライト)】患者が期待通り回復していないことを示す下記の部分をハイライトで示しなさい

患者は脾臓摘出術の術後3日目であり、最小限の介助で1日3-4回廊下を歩くことができる。左胸にチューブを留意し、胸腔内ドレナージシステムを装着しているが、呼吸音は明瞭で深呼吸で水封室の水位が上下する。左胸痛がおこるからとインセンティブスパイロメトリーの使用拒否あり。処方されたPCAを1時間おきに最大限に使用しており、吐気を伴う間欠的な嘔吐が続いている。適切な尿量あり。腹部創傷部位に発赤・浮腫・浸出液見られず、ドレッシングは清潔で乾燥している。

NGN Case Study作成の実現/持続可能性

- 作題者に求められる能力
 - 臨床判断能力
 - 自身の臨床判断を試験問題に反映させる能力
 - 基本的な作題能力
 - 臨床判断を6つの技術の観点に分解する能力

高度に統合された能力が必要

- 臨床判断
- 問題作成

それぞれのエキスパートはいるか？

大量の問題を作成し続けることは
難しい

臨床判断のエキスパートは豊富

まず、直近の症例について、以下の情報を埋めて返信してください。

- 主訴・相談の内容
- (相談であれば相談者)
- 患者さんの現病歴
- 患者さんの年齢
- 患者さんの性別
- 特筆すべき既往歴・生活状況
- 今回の病名の発症日
- 今回の病名の症状経過

📧 18:38

昨日担当した34歳女性の方の症例をお話します。統合失調症の患者さんで、「職場の人が私の悪口を言っている」という被害妄想と幻聴の症状が出ています。母親からの相談で緊急受診となりました。5年前から通院歴があり、2年前まで事務職として働いていました

メッセージを入力... (Ctrl + Enter で送信)



14:30

34歳女性、統合失調症で緊急受診。被害妄想と幻聴あり。1週間前から睡眠障害と食欲低下。身長158cm、体重42kg（1ヶ月で5kg減）。バイタル：呼吸24回/分、規則的。意識清明だが緊張した様子。独り言や「死にたい」発言あり。母親に24時間見守り依頼。顔色青白く、声小さく震え、質問への応答緩慢。

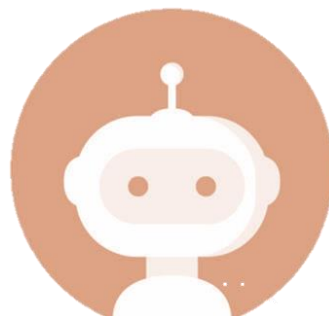
問題 1

< 1 / 1 >

この事例において、初期評価で優先すべき観察項目として適切なものを4つ選んでください。

4つまで選択してください

- ☐ 自殺念慮の有無と程度
- ☐ 幻覚・妄想の内容と頻度
- ☐ 食事摂取量と体重の変化
- ☐ 服薬状況と副作用の有無
- ☐ 睡眠パターンと質
- ☐ 家族のサポート状況



活動まとめと2025以降の計画

- システムの基本設計
 - 作問者とのチャットモジュール
 - 試験問題作成・提示モジュール
 - 資質能力マークアップモジュール
 - データベース格納モジュール
 - 6技術をフレームワークとしたチャット、試験問題作成・提示モジュールの開発
- 
- 臨床エキスパートの入力をもとにモジュール調整
 - 開発の検討
 - 査読モジュール
 - マークアップモジュール
 - データベース格納モジュール
 - 問題セットの実証

看護実践能力評価基準検討委員会

活動④ JANPU-CBT 運営事業

佐藤聖一(京都橘大学)

川村崇郎(防衛医科大学校)

西村礼子(東京医療保健大学)

2024年度 JANPU-CBT運営事業 —目的—

- CBTの必要性に関する啓蒙
- CBT実施環境の構築、サポート体制の整備・拡充
- 会員校のICTやネットワーク環境、ICT 機器の準備状況についての評価
- 会員校のCBTの実施体制、運用に関する評価
- 看護学教育における参加型臨地実習の実現に向けたCBT導入
- CBT実施における課題抽出

2024年度 JANPU-CBT運営事業 —実施結果の概要—

	実施日	参加校数 (校)	申込学生数 (名)	参加学生数 (名)	参加率 (%)
第1回	2024年8月29日	3	264	165	62.5
第2回	2024年9月19日	6	297	224	75.4
第3回	2025年2月26日	6	456	308	67.5
第4回	2025年3月4日	3	277	196	70.8
合 計		18	1294	893	69.0

【成果:事後アンケートより】

- ・ 領域実習前の知識の定着の確認
- ・ 学生の学習意欲の向上、課題の明確化
- ・ 各校でのCBT導入における課題の明確化
- ・ 実証事業への協力

2025年度活動計画

- JANPU-CBT実証事業については、実証参加校の拡大を目指し、実証日の増加・設定、会員校が参加しやすいCBT実施・運営方法の整備
- 作問システムにより作成された問題の搭載
- 新しい形式の問題の特徴や、看護学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応の周知・啓蒙
- 回答結果の分析～持続可能な問題作成・搭載・評価システムの構築



一般社団法人 日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNブランドデザイン委員会

APNブランドデザイン方針 進捗状況

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNブランドデザイン委員会

CNSチーム

- ・ CNSの定義を策定し、共通コンピテンシーを資質・能力に展開した。
- ・ 共通科目（AおよびB）、標準シラバスを作成した。
- ・ 3月29開催の説明会で上記の詳細を説明し、会員校からの質問に対応した。
- ・ 標準シラバスにもとづくe-learning教材について、エルゼビア社と協働することとし、秘密保持契約を締結、内容の検討を開始した。

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNブランドデザイン委員会

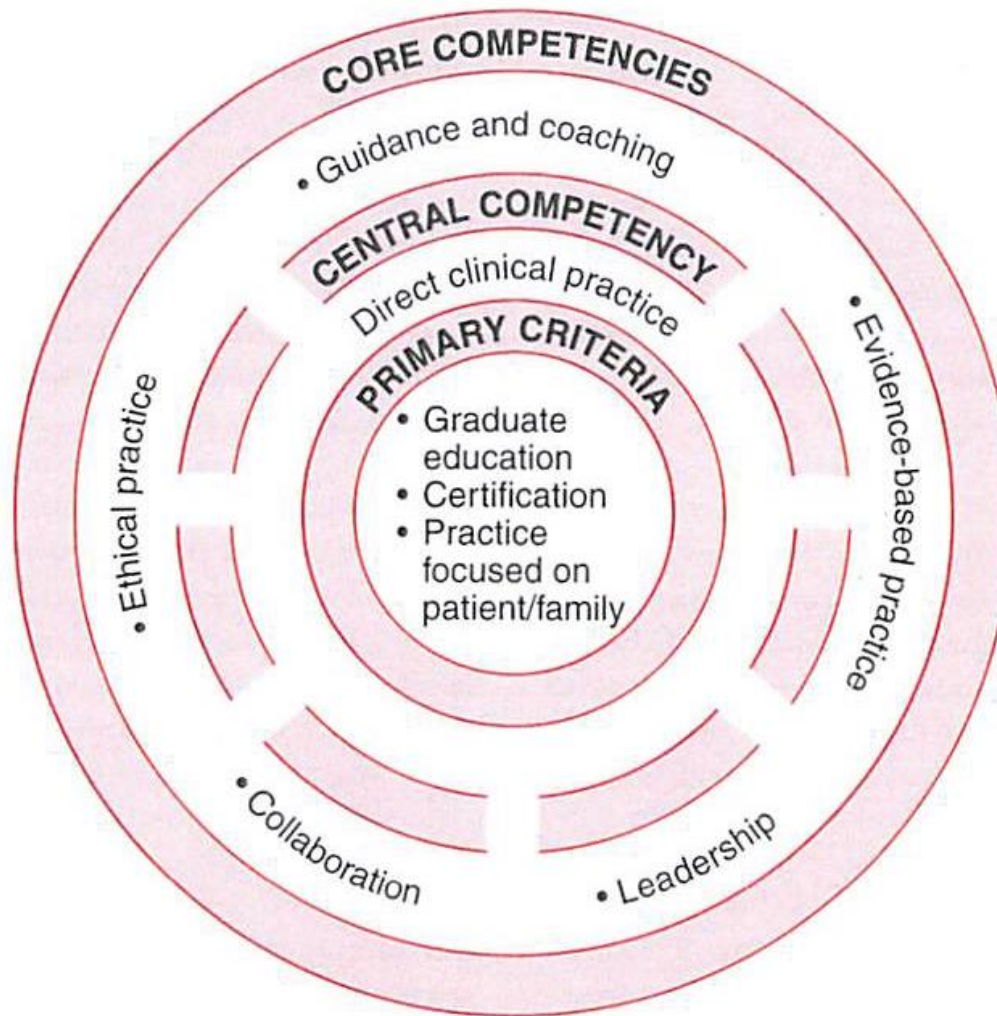


Fig. 3.3 ■ Core competencies of advanced practice nursing.

Mary Fran Tracy, Eileen T.O'Grady, Susanne J. Phillips (2023) : HAMRIC&HANSON'S ADVANCED PRACTICE NURSING AN INTEGRATIVE APPROACH edition7, ELSEVIER.

IV. 議事説明【報告事項】

7. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNグランドデザイン委員会

資料2 (修正版) 専門看護師に共通するコンピテンシーと定義・資質・能力
(説明会での意見により、資料2より一部修正)

	CNS共通コンピテンシー		資質・能力 : 38単位のコンピテンシー基盤型教育課程(共通科目A,B、専攻分野共通科目、専攻分野専門科目、実習科目)を通して修得
A	エビデンスと倫理的判断に基づく 実践力	A-1	対象の(生活状況を含む)包括的アセスメントを行い、各分野の専門的知識を深め、エビデンスに基づいた的確な臨床判断を行うことができる
		A-2	対象となる人々の尊厳を守り、権利を擁護するために適切な倫理的判断と判断に基づいた倫理調整をすることができる
		A-3	複雑で解決困難なケースの看護実践を高度なケアとキュアの知識を用いて、エビデンスと倫理的判断に基づき計画・実施・評価することができる
		A-4	特定分野における専門看護師の役割や実践についてリフレクションし、自己の課題を明確にできる
B	看護の質保証・改善を推進する リーダーシップ力	B-1	看護実践の一連のプロセスと成果を分析し、組織分析、課題の発見、課題解決に向けて関係者と話し合うことができる
		B-2	治療・療養・生活過程における意思決定に関わる倫理的課題の解決に向けて調整力を発揮することができる
		B-3	効果的な看護実践を標準化するための新たな方略を部門や組織に提案し、ケアシステム全体の看護実践の質の向上を図ることができる
		B-4	組織内外の専門分野の看護の質向上のために、組織を巻き込み、リーダーシップを発揮することができる

7. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNグランドデザイン委員会

	CNS共通コンピテンシー		資質・能力：38単位のコンピテンシー基盤型教育課程（共通科目A、B、専攻分野共通科目、専攻分野専門科目、実習科目）を通して修得
C	組織的アプローチを推進し 調整・協働する力	C-1	保健医療福祉制度・政策の現状を理解し、組織や部門の課題を分析・評価して明確にすることができる
		C-2	組織や看護部門の変革に必要な改善課題の明確化、改善の程度を評価する指標、データ測定・分析、改善策の立案・実施・評価をすることができる
		C-3	必要な医療・ケアが円滑に提供されるように、保健医療福祉関係者間の関係性を見極め、調整・連携することができる
		C-4	（ケアコーディネータとして）ケアの改善課題に対して、多職種間を調整し協働して組織的活動のなかでリーダーシップを発揮することができる
		C-5	看護実践に関わる人々の課題を解決する力を高めるための相談支援（コンサルテーション）を行うことができる
D	効果的な看護実践を創発する 教育力	D-1	実践現場の個々の看護職または部門全体の実践能力と課題を見極めて教育支援を行うことができる
		D-2	組織や部門の組織文化や学習ニーズをとらえ、効果的な看護実践を導入する教育企画を立案し、組織全体の看護の質向上を図ることができる
		D-3	各分野の看護実践に関連する諸理論や質の高い研究結果を理解し、（実践に活用するとともに、）組織内外の看護教育に役立てることができる
		D-4	看護実践に関わる人々をエンパワーし、ケアの質を高めるために相談支援（コンサルテーション）の方略を用いることができる
E	実践の質向上に寄与する 研究力	E-1	専門分野に関する最新の研究成果を批判的に吟味し、その内容を看護実践に活用することができる
		E-2	組織や部門の看護知識や技術を深めるための研究活動に参加し、看護職の研究支援を行うことができる
		E-3	看護実践の成果を研究的に明らかにし、看護のエビデンスの蓄積をすることができる
		E-4	看護のエビデンスを用いて部門や組織・地域・社会などの看護実践の質向上に貢献することができる
F	医療・ケアシステムを 変革する力	F-1	変化する社会のニーズを多角的にとらえ、専門分野に関する組織や社会の中の課題を明確にすることができる
		F-2	保健医療福祉制度・政策の現状を理解し、組織や地域の医療ニーズ・課題を踏まえて新たな医療・ケアシステムを検討することができる
		F-3	変革に必要なキーパーソンや関係団体を見極め、課題解決に向けた調整や協働をすることができる
		F-4	効果的なケア提供システム構築に向けて、看護の視座から研究結果や蓄積したデータを基に関係者と交渉することができる

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNグランドデザイン委員会

資料3. CNS教育課程（現行と改正案）

資料3-1 専門看護師教育課程

現行	改定案
共通科目A 8単位以上 共通科目A 8単位 (資料3-2) 共通科目B 6単位	共通科目A 8単位 (資料3-2) 共通科目B 6単位 共通科目B 6単位 (資料3-2)
専攻分野共通科目・専攻分野専門科目を合わせて14単位(以上)	専攻分野共通科目・専攻分野専門科目を合わせて14単位
* 専攻分野共通科目・専攻分野専門科目の単位の配分やその考え方は統一されていない(分野ごとに異なる)	専攻分野共通科目 2~6単位 * CNSが共通して高度実践において学ぶ必要性のある内容を含む科目、CNSが共通して学びを深めるための基盤となる内容を含む科目 専攻分野専門科目 8~12単位 * 専門性が高く分野独自の内容を教授する科目
実習科目10単位 * 研究に関する内容は認めない	実習科目10単位 * 各大学で大学院設置基準第16条を満たすために設置した研究能力育成に関する科目を4単位まで含むことを認める。(各分野、教育課程の判断による)
合計 38単位以上	合計 38単位

資料3-2 共通科目

現行	改定案
共通科目A (以下、1科目1~2単位、計8単位以上 選択必修)	共通科目A (以下、各2単位、計8単位必修)
・看護教育論 ・看護管理論 ・看護理論 ・看護研究 ・コンサルテーション論 ・看護倫理 ・看護政策論	・リーダーシップ論 ・看護研究 ・コンサルテーション論 ・看護倫理
共通科目B (以下、1科目2単位、計6単位)	共通科目B (以下、1科目2単位、計6単位)
・フィジカルアセスメント ・病態生理学 ・臨床薬理学	・フィジカルアセスメント ・病態生理学 ・臨床薬理学

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑨APNブランドデザイン委員会

NPチーム

資料 1. 日本看護系大学協議会と日本NP教育大学院協議会の協議（二団体協議）で合意した日本版NPのコンピテンシー

2024 年 1 月 10 日

No.	コンピテンシー名称
I	包括的健康アセスメント能力
II	医療的処置マネジメント能力
III	卓越した看護実践能力
IV	看護マネジメント能力
V	チームワーク能力
VI	保健福祉制度の活用・開発能力
VII	倫理的実践能力

※下位項目の資質・能力等については検討中。

V. 議事説明【報告事項】

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑩JANPU-NP資格認定委員会

- 2024年度 日本看護系大学協議会 ナースプラクティショナー (JANPU-NP) 資格認定審査実施および2025年度認定審査準備 (要項や審査方法の見直しを含む)
- 2025年度 日本看護系大学協議会 ナースプラクティショナー (JANPU-NP) 資格認定審査
- 2025年度 日本看護系大学協議会 ナースプラクティショナー (JANPU-NP) 認定更新審査

5. 2024年度各委員会の事業活動報告

【臨時委員会事業報告】 ⑩JANPU-NP資格認定委員会

- 2025年度 日本看護系大学協議会 ナースプラクティショナー (JANPU-NP) 資格認定審査を実施
 - 審査申請書受付期間 3月18日(火)～4月9日(水)
 - 書類審査合格後、面接試験 5月11日(日)を実施
 - 資格認定審査結果の通知 5月23日(金)に発送
 - JANPU-NP資格認定証交付・JANPU-NP登録・名簿公表 6月20日(金)
 - 受験者1名、合格者1名 ➡資格認定者全16名
- 2025年度 日本看護系大学協議会 ナースプラクティショナー (JANPU-NP) 認定更新審査を実施予定
 - 審査申請書受付期間 10月20日(月)～10月29日(水)



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【審議事項】

第1号議案

2024年度決算承認・監査報告について

資料4-5

第1号議案 2024年度決算・監査報告

決算報告

- **貸借対照表**：決算時における資産・負債・正味財産の状態 p1-2

資産(負債+正味財産)合計	111,353,368円	(増減	3,628,226円)
負債の部合計	1,971,329円	(増減	<u>-4,574,484円</u>)
正味財産の部合計	109,382,039円	(増減	8,202,710円)
- **正味財産増減計算書**：正味財産の勘定科目別に表記 p3-4

経常増減の部(経常収益)	88,954,361円
経常増減の部(経常費用)	80,681,810円 (増減 <u>-4,943,694円</u>)
- **財産目録**：資産、負債、正味財産の目録 p7-8
- **2024年度決算書 部門別予算額に対する執行額と執行率** p11

経常費用の事業費・管理費、各委員会・事業の予算額・執行額・執行率

● 2024年度決算書

経常支出の事業費・管理費、各委員会・事業別

	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	執行率
●事業費	83,480,500	65,432,380	18,048,120	78.4%
高等教育行政対策委員会	1,715,000	1,446,291	268,709	84.3%
看護学教育質向上委員会	4,258,000	587,054	3,670,946	13.8%
高度実践看護師教育課程認定委員会	7,590,000	5,910,381	1,679,619	77.9%
広報・出版委員会	2,374,000	2,113,016	260,984	89.0%
国際交流推進委員会	2,949,000	1,373,633	1,575,367	46.6%
データベース委員会	1,866,500	1,865,927	573	100.0%
災害支援対策委員会	2,950,000	1,719,762	1,230,238	58.3%
APNグランドデザイン委員会	1,337,000	606,892	730,108	45.4%
JANPU－NP資格認定委員会	756,000	431,649	324,351	57.1%
看護実践能力評価基準検討委員会	12,537,000	8,162,521	4,374,479	65.1%

● 2024年度決算書

経常支出の事業費・管理費、各委員会・事業別

	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	執行率
常任理事報酬その他	6,318,000	6,007,238	310,762	95.1%
文部科学省委託事業1	7,000,000	11,799,424	▲3,799,424	147.5%
文部科学省委託事業1自己負担金	1,000,000			
文部科学省委託事業2	5,280,000	7,564,066	▲2,284,066	143.3%
文部科学省委託事業2自己負担金	500,000			
2024年度重点事業に係る経費予算	18,300,000	7,825,125	10,474,875	42.8%
事業費共通経費	6,250,000	8,019,401	▲ 1,769,401	128.3%
予備費（研修会費等）	500,000	0	500,000	0.0%

● 2024年度決算書

経常支出の事業費・管理費、各委員会・事業別

	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	執行率
●管理費	27,829,000	24,070,951	3,758,049	86.5%
総会	3,700,000	3,712,383	▲ 12,383	100.3%
理事会	8,850,000	7,135,779	1,714,221	80.6%
選挙管理委員会	750,000	569,453	180,547	75.9%
事務局費	14,029,000	12,653,336	1,375,664	90.2%
予備費	500,000	0	500,000	0.0%
●経常支出合計	111,309,500	89,503,331	21,806,169	80.4%

監査報告

定款の規定に基づき2024年4月1日から2025年3月31日までの2024年度における会計および業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- 1) 会計監査については、出納帳ならびに関係書類の突合せや閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の記載事項を調査検討した。
- 2) 業務監査については、理事会およびその他の会議に出席し、理事からの業務報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて理事の業務執行の状況を調査検討した。

2. 監査意見

- 1) 収支計算書、貸借対照表、財産目録および正味財産増減計算書は、会計の出納帳の記載金額と一致し、収支状況および財産目録を正しく示していると認める。
- 2) 事業報告の内容は真実であると認める。
- 3) 理事の職務執行に関する不正な行為または法令もしくは会則に違反する事実はないと認める。



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

議決書の提出について

- 「第1号議案2024年度決算承認・監査報告について」、
「賛・否」のいずれかを○で囲み、社員が署名／捺印後、
FAXまたはpdfをメール添付で、**7月1日必着**で、日本看護系大学
協議会事務局宛に送付して下さるようお願いいたします。**
- ・ 審議結果につきましては、**後日、日本看護系大学協議会のホーム
ページでご報告**させていただきます。



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

V. 議事説明【予算報告】

2025年度収支予算書

V. 議事説明【予算報告】2025年度収支予算書

	2025年度 予算額(A)	2024年度 予算額(B)	差異(A-B)	2024年度 執行額(C)
●経常収入の部	76,968,000	88,275,400	▲ 11,307,400	88,954,361
会費収入	70,610,000	69,920,000	690,000	69,920,000
会費	70,610,000	69,920,000	690,000	69,920,000
事業収入	5,500,000	18,280,000	▲ 12,780,000	18,922,900
高度実践看護師教育課程認定費 JANPU－NP審査料登録料	5,500,000	6,000,000	▲ 500,000	6,642,900
文部科学省委託事業費1	－	7,000,000	▲ 7,000,000	7,000,000
文部科学省委託事業費2	－	5,280,000	▲ 5,280,000	5,280,000
雑収入	858,000	75,400	782,600	111,461
雑収入	858,000	75,400	782,600	111,461
●経常支出の部	100,460,055	111,109,500	▲ 10,649,445	88,307,320
事業費	72,827,055	83,480,500	▲ 10,653,445	65,422,849
管理費	27,633,000	27,629,000	4,000	22,884,471
●経常費収支差額	▲ 23,492,055	▲ 22,834,100	▲ 657,955	647,041

● 2025年度予算書 経常費用の事業費、各委員会・事業別

	2025年度 予算額(A)	2024年度 予算額(B)	差異(A-B)	2024年度 執行額(C)
●事業費	72,827,055	83,480,500	▲ 10,653,445	65,422,849
高等教育行政対策委員会	1,420,000	1,715,000	▲ 295,000	1,446,291
看護学教育質向上委員会	1,010,000	4,366,000	▲ 3,356,000	587,054
看護学教育評価検討委員会	—	—	—	—
高度実践看護師教育課程認定委員会	6,320,000	7,594,500	▲ 1,274,500	5,910,381
広報・出版委員会	2,138,000	2,371,000	▲ 233,000	2,113,016
国際交流推進委員会	1,839,000	2,950,000	▲ 1,111,000	1,373,633
データベース委員会	2,305,000	1,756,000	549,000	1,865,927
災害支援対策委員会	2,016,000	2,950,000	▲ 934,000	1,719,762
APNグランドデザイン委員会	1,520,000	1,335,000	185,000	606,892
JANPU－NP資格認定委員会	565,000	755,000	▲ 190,000	431,649
看護実践能力評価基準検討委員会	4,712,000	12,540,000	▲ 7,828,000	8,162,521

● 2025年度予算書 経常費用の事業費、各委員会・事業別

2025年度
予算額(A)

2024年度
予算額(B)

差異(A-B)

2024年度
執行額(C)

健康危機管理教材作成・運用検討委員会	5,565,000	—		
50周年記念事業	5,157,055	—		
常任理事報酬その他	6,185,000	6,318,000	▲ 133,000	6,007,238
文部科学省委託事業 1 実行委員会	—	7,000,000	▲ 7,000,000	11,799,424
文部科学省委託事業 1 自己負担金	—	1,000,000	▲ 1,000,000	
文部科学省委託事業 2 実行委員会	—	5,280,000	▲ 5,280,000	7,564,066
文部科学省委託事業 2 自己負担金	—	500,000	▲ 500,000	
2025年度/2024年度 重点事業に係る経費予算	23,500,000	18,300,000	5,200,000	7,825,125
事業費共通経費	8,075,000	6,250,000	1,825,000	8,009,870
予備費(研修会費等)	500,000	500,000	0	0



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

VI. お知らせ

1. 50周年記念式典・特別講演・記念パーティのご案内
2. 2026年度定時社員総会開催日時
3. 看護系大学に関する実態調査のお願い

VI. お知らせ

1. 50周年記念式典・特別講演・記念パーティのご案内

日程：**2025年10月24日（金）**

【記念式典・特別講演】

会場：聖路加国際大学 アリス・C・セントジョン メモリアルホール

記念式典：13時～13時50分（12時30分より受付開始）

特別講演：14時～15時50分 ※後日、オンデマンド配信予定

テーマ：「看護学～その未来を語る～」

講師：

佐久間一郎先生（看護理工学会副理事長）

榊原哲也先生（東京女子大学現代教養学部人文学科哲学専攻 教授）

吉沢豊予子先生（日本学術会議連携会員、日本看護科学学会理事長）





VI. お知らせ

1. 50周年記念式典・特別講演・記念パーティのご案内

【記念パーティー】

会場：RESTAURANT LUKE with SKY LOUNGE（聖路加ガーデン47階）

開催時間：16時30分～18時（16時15分より受付開始）

対 象：会員校の教員（1大学1名まで）

定 員：記念式典会場＝350名程度、記念パーティー会場＝先着100名

参 加 料：記念式典、特別講演 参加無料

記念パーティー 会費10,000円

申込期日：2025年8月15日（金）まで（総会事前説明会後、案内送付）



VI. お知らせ

2. 2026年度定時社員総会開催日時

日 程： **2026年6月26日（金）** 終日予定

開催方法： オンライン（予定）

Zoomウェビナーの「投票」機能を使い、
2026年度社員総会の開催方法（会場開催 or
オンライン開催）についてアンケートを行います。

VI. お知らせ

2. 2026年度定時社員総会開催日時

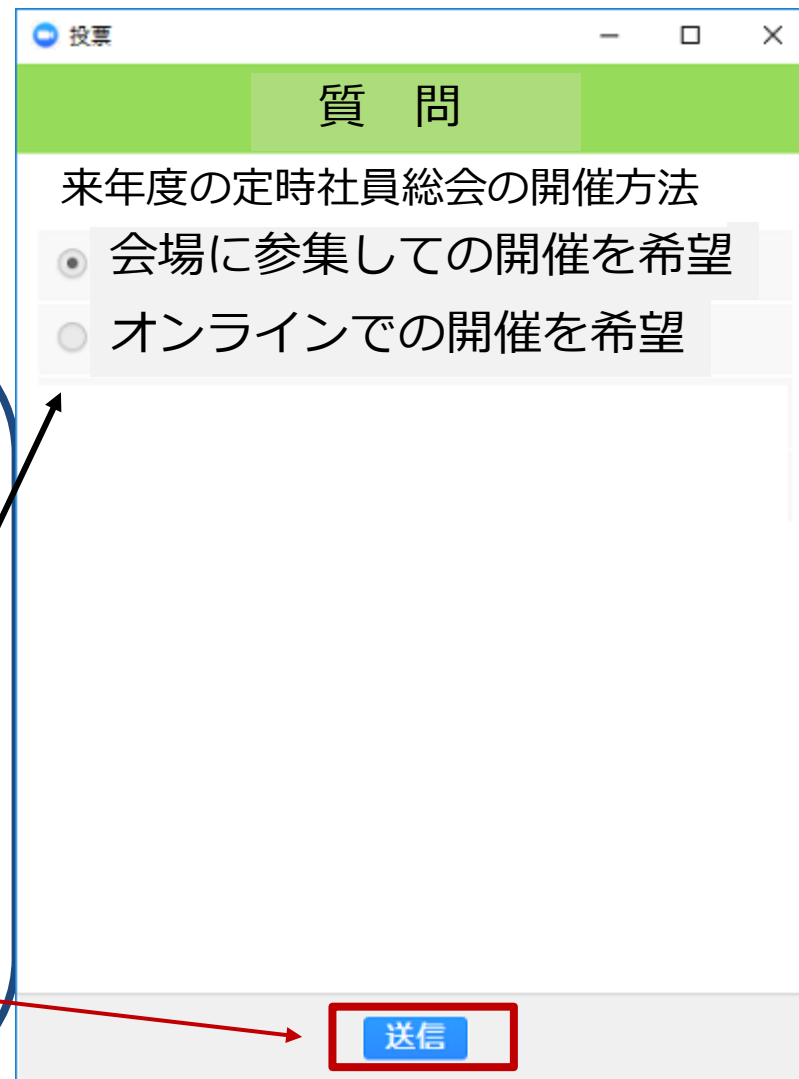
日 程： **2026年6月26日（金）** 終日予定

開催方法：オンライン（予定）

ただいまより、右図に示した画面が示されます。

議決権をお持ちの代表者の先生のみ、

「○会場に参集・○オンライン」のどちらかをクリックした後、赤枠で示した「送信」ボタンを押してください





VI. お知らせ

・ 看護系大学に関する実態調査のお願い

調査（入力）期間：**2025年10月～12月（予定）**

ホームページアドレス：<https://www.janpu.or.jp/>
（トップページに実態調査のバナーを設置予定）

- 調査内容（2024年度版を参照）
- 質問と回答集
- 過去の集計結果の閲覧のURLは、資料8をご覧ください。

お問い合わせ先（資料8参照）

1) **調査の内容、集計に関すること**

2025年度データベース委員会委員長 鈴木久美

2) **提出方法、会員校コードに関すること**

一般社団法人日本看護系大学協議会事務局

資料8



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

VII. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

Ⅶ. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

質問内容：

CNSの役割は、実践、相談（コンサルテーション）、教育、研究、調整、倫理調整ですが、この中のコンサルテーションのみ「CNS共通コンピテンシー」に含まれていないのはどうしてでしょうか。コンサルテーションは、看護職者のアセスメントやケアの力を高めるように支援し、看護の対象者に最善のケアを届けるというCNSに特徴的な機能です。ですので共通コンピテンシーに含めるべきだと考えます。ご提案では「リーダーシップ力」と「教育力」の1項目として示されていますが、コンサルテーションはコンサルティである看護職者を主体とした側面的な支援ですのでCNSがリーダーシップを発揮して実施するものではないと思います。またコンサルティと対等なパートナーシップを築いて問題の解決や改善に共に取り組むものですから、教育的 な要素はあるものの教育に包含する性質のものではなく、別個の能力として位置付けるのが妥当だと考えます。

「コンサルテーション論」の科目がCNS共通科目に位置付けられていますが、それはコンサルテーションの理論や技法を能力（コンピテンシー）として身につける必要があるからだと思います。であるなら、リーダーシップや教育の一部にコンサルテーションを含めるのではなく、共通コンピテンシーとして明確に位置付ける必要がある と考えます。ご検討をお願いいたします。

Ⅶ. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

回答：（1/2）

2023年度事業活動報告P.117～121に示したように、CNS課程への入学者、認定試験受験者、更新試験受験者、および教育課程が増えていない現状があり、CNS制度の存続に対する危機感があります。JANPUではこの状況を受けて、CNS課程の設置と教育をよりスムーズに行うことを目的として、高度実践看護師教育課程の標準化に取り組んでいます。

2022年の活動報告書の内容の通り（2022年度報告書）、HamricのAPNのコアコンピテンシー(HAMRIC&HANSON'S ADVANCED PRACTICE NURSING AN INTEGRATIVE APPROACH edition7,2023)、既存のCNSのコンピテンシーに関する書籍や文献を参照して、CNS共通のコンピテンシーを出し（2023年度報告書）、資質・能力（2024年度報告書）を検討しました。

コンピテンシーに基づく38単位のコンピテンシー基盤型教育課程は、コンサルテーション機能も含む6つの役割機能を発揮できる資質・能力を表に示しています。コンサルテーションに関連する内容をスライドに示します。

Ⅶ. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

回答：（2/2）

コンサルテーションならびに倫理調整は、看護実践全体に組み込まれている活動（前述書）とされ、コンサルテーションは、今回示したコンピテンシーの下位項目、複数の資質・能力の項目（実践力A-4, リーダーシップ力B-1, B-2, 調整・協働する力C-5, 教育力D-1, D-4, 変革する力F-1, F-2, F-3）の中に組み込まれています。

実践力、リーダーシップ力、調整・協働する力、教育力、変革する力それぞれのコンピテンシーにおいて、資質・能力としてコンサルテーションの理論や技法は重要であると考え、共通科目としてコンサルテーション論を配置しています。専攻分野においてもコンサルテーションの実際について学ぶと思います。

CNSの共通コンピテンシーを備えた高度実践看護師が、特定分野の専門性に基づき、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、個人・家族・集団・地域・組織全体の医療・看護の改善・質向上を、CNSの6つの役割機能を用いて図っていくと考えています。

コンサルテーションという用語そのものが含まれていない項目もあり、よりわかりやすくなるような案をご質問いただいた先生にもご提案いただけましたら幸甚です。

Ⅶ. 意見交換

APNグランドデザイン委員会 報告スライド

資料 2（修正版）専門看護師に共通するコンピテンシーと定義・資質・能力
（説明会での意見により、資料 2 より一部修正）

	CNS共通コンピテンシー		資質・能力：38単位のコンピテンシー基盤型教育課程（共通科目A,B、専攻分野共通科目、専攻分野専門科目、実習科目）を通して修得
A	エビデンスと倫理的判断に基づく 実践力	A-1	対象の（生活状況を含む）包括的アセスメントを行い、各分野の専門的知識を深め、エビデンスに基づいた的確な臨床判断を行うことができる
		A-2	対象となる人々の尊厳を守り、権利を擁護するために適切な倫理的判断と判断に基づいた倫理調整をすることができる
		A-3	複雑で解決困難なケースの看護実践を高度なケアとキュアの知識を用いて、エビデンスと倫理的判断に基づき計画・実施・評価することができる
		A-4	特定分野における専門看護師の役割や実践についてリフレクションし、自己の課題を明確にできる
B	看護の質保証・改善を推進する リーダーシップ力	B-1	看護実践の一連のプロセスと成果を分析し、組織分析、課題の発見、課題解決に向けて関係者と話し合うことができる
		B-2	治療・療養・生活過程における意思決定に関わる倫理的課題の解決に向けて調整力を発揮することができる
		B-3	効果的な看護実践を標準化するための新たな方略を部門や組織に提案し、ケアシステム全体の看護実践の質の向上を図ることができる
		B-4	組織内外の専門分野の看護の質向上のために、組織を巻き込み、リーダーシップを発揮することができる

Ⅶ. 意見交換

APNグランドデザイン委員会 報告スライド

	CNS共通コンピテンシー		資質・能力：38単位のコンピテンシー基盤型教育課程（共通科目A、B、専攻分野共通科目、専攻分野専門科目、実習科目）を通して修得
C	組織的アプローチを推進し 調整・協働する力	C-1	保健医療福祉制度・政策の現状を理解し、組織や部門の課題を分析・評価して明確にすることができる
		C-2	組織や看護部門の変革に必要な改善課題の明確化、改善の程度を評価する指標、データ測定・分析、改善策の立案・実施・評価をすることができる
		C-3	必要な医療・ケアが円滑に提供されるように、保健医療福祉関係者間の関係性を見極め、調整・連携することができる
		C-4	（ケアコーディネータとして）ケアの改善課題に対して、多職種間を調整し協働して組織的活動のなかでリーダーシップを発揮することができる
		C-5	看護実践に関わる人々の課題を解決する力を高めるための相談支援（コンサルテーション）を行うことができる
D	効果的な看護実践を創発する 教育力	D-1	実践現場の個々の看護職または部門全体の実践能力と課題を見極めて教育支援を行うことができる
		D-2	組織や部門の組織文化や学習ニーズをとらえ、効果的な看護実践を導入する教育企画を立案し、組織全体の看護の質向上を図ることができる
		D-3	各分野の看護実践に関連する諸理論や質の高い研究結果を理解し、（実践に活用するとともに、）組織内外の看護教育に役立てることができる
		D-4	看護実践に関わる人々をエンパワーし、ケアの質を高めるために相談支援（コンサルテーション）の方略を用いることができる
E	実践の質向上に寄与する 研究力	E-1	専門分野に関する最新の研究成果を批判的に吟味し、その内容を看護実践に活用することができる
		E-2	組織や部門の看護知識や技術を深めるための研究活動に参加し、看護職の研究支援を行うことができる
		E-3	看護実践の成果を研究的に明らかにし、看護のエビデンスの蓄積をすることができる
		E-4	看護のエビデンスを用いて部門や組織・地域・社会などの看護実践の質向上に貢献することができる
F	医療・ケアシステムを 変革する力	F-1	変化する社会のニーズを多角的にとらえ、専門分野に関する組織や社会の中の課題を明確にすることができる
		F-2	保健医療福祉制度・政策の現状を理解し、組織や地域の医療ニーズ・課題を踏まえて新たな医療・ケアシステムを検討することができる
		F-3	変革に必要なキーパーソンや関係団体を見極め、課題解決に向けた調整や協働をすることができる
		F-4	効果的なケア提供システム構築に向けて、看護の視座から研究結果や蓄積したデータを基に関係者と交渉することができる

Ⅶ. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

質問内容：

CNS実習の単位数について、「研究能力育成に関する科目を4単位まで含むこと を認める」について、変更理由を教えてください。仮に実習を6単位にした場合、米国のCNSコースの実習時間500時間に比べ半分以下となります。高度実践家の教育として十分とは言えないと思います。研究は修士課程で別途教育していますので、研究 を実習単位として組み入れることが妥当とは考えにくいのではないのでしょうか。

回答：（1/3）

検討の詳細は、2023年度事業活動報告P.117～121に示していますが、CNS課程への入学者、認定試験受験者、更新試験受験者、および教育課程が増えていない現状があり、CNS制度の存続に対する危機感があります。

Ⅶ. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

回答：（2/3）

資格を認定する日本看護協会では、認定・更新のための審査方法を大きく変更しました。このような動きの中で、教育課程としては、昨年度のAPNグランドデザイン委員会CNSチームでは、CNSは「個人・集団・組織の医療・看護の質の向上に寄与する存在」としてもとの役割であった「研究」のための力を発揮しうることを示す必要があると考えました。

CNS課程の院生が行う研究は、看護の対象者や現場の課題を深く理解、分析し、解決策を導く論理的思考を高めます。この経験は、看護の実践力や教育力を身につけていくことにもなります。各大学では、通常「課題研究」等を位置付けており、CNS課程で学ぶ学生は、大学の状況によっては多くの単位をとる必要があり、負担感の要因の一つになっています。実際的に学んでいること、学ぶ必要があることをCNSの教育課程基準として認めていくことは妥当と考えました。この単位を「実習」として認めることについては、さまざまなご意見がありますが、臨床での活動に基づく「研究」を実際に行うことは、「実践」を実際に行うことと同等の「実習」として捉えることは可能と考えます。

Ⅶ. 意見交換

【事前質問書の事項に対する回答】

回答：（3/3）

「研究能力育成に関する科目を4単位まで含むことを認める」ということは、これまで「研究」の内容は「実習」として認めないと明示していた時から、各専門分野、各大学の自由度を高めるものであり、「認めなければならない」と制限するものではありません。

各専門分野での事情はさまざまであるため、各分野の審査規準として「研究能力育成に関する科目を4単位まで含むことを認める」か否か、何単位まで認めるかの決定は、2025年度に各専門分科会にて検討する予定です。また、審査規準では「認める」となったとしても、各大学の教育課程に研究を実習に含めるか否かについては、各大学で判断いただけます。



一般社団法人

日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

閉会後もご意見・ご質問を受け付けます

- ✕ 切 7月1日（火）**必着**
 - 受付先 日本看護系大学協議会 事務局 office@janpu.or.jp
- 後日、JANPUホームページに回答内容を掲載させていただきます

今後のスケジュール

7月1日まで
議決書を提出
してください



7月4日
理事・監事による
定時社員総会



審議事項の結果を
含む総会議事録等を
JANPUホームページ
に掲載

本日午前中の 文部科学省・厚生労働省からの情報提供の資料及び動画は
ホームページの「会員校専用ページ」に掲載します



一般社団法人
日本看護系大学協議会

2025年度 社員総会事前説明会・意見交換会

閉会

長時間にわたりご参加いただき、ありがとうございました